

国立民族学博物館研究報告 vol.11-1; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	11
号	1
発行年	1986-08-25
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009225

1986—11.1号
卷 1

国立民族学博物館 研究報告



東アジアの魚醬

——魚の発酵製品の研究(1)——石毛直道

東北農村におけるキリスト教の受容——伊藤幹治

コンピュータ民族学序説——杉田繁治

雨と紛争

——ナイル系バリ社会における首長殺しの事例研究——栗本英世

マヤ文字の分析 I

——ナランホ——八杉佳穂

ヨーロッパの野外博物館

——その民族学的・地理学的研究——杉本尚次

Energy Exchanges and the Energy Efficiency of Household Ponds in
the Dike-Pond System of the Zhujiang Delta, China——Kenneth Ruddle
Deng Hanzeng
Liang Guozhao



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

11 卷 1 号

1986年8月

目 次

東アジアの魚醤

—魚の発酵製品の研究(1)—石毛直道..... 1

東北農村におけるキリスト教の受容.....伊藤幹治..... 43

コンピュータ民族学序説.....杉田繁治..... 57

雨と紛争

—ナイル系バリ社会における首長殺しの事例研究—栗本英世..... 103

マヤ文字の分析 I

—ナランホ—八杉佳穂..... 163

ヨーロッパの野外博物館

—その民族学的・地理学的研究—杉本尚次..... 263

Energy Exchanges and the Energy Efficiency of Household Ponds in
the Dike-Pond System of the Zhujiang Delta, China...Kenneth Ruddle ... 323

Deng Hanzeng

Liang Guozhao

彙 報..... 345

国立民族学博物館研究報告寄稿要項..... 351

国立民族学博物館研究報告執筆要領..... 352

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 11 No. 1

1986

ISHIGE, Naomichi	<i>Gyoshō</i> in Northeast Asia: A Study of Fermented Aquatic Products	1
ITOH, Mikiharu	Acceptance of Christianity (Catholicism) in a Northeastern Japanese Rural Community.....	43
SUGITA, Shigeharu	An Introductory Perspective on "Computer Ethnology"	57
KURIMOTO, Eisei	The Rain and Disputes: A Case Study of the Nilotic Pari	103
YASUGI, Yoshiho	The Analysis of the Mayan Glyphs: Part 1, Naranjo	163
SUGIMOTO, Hisatsugu	An Ethnological and Geographical Study of European Open-Air Museums	263
RUDDLE, Kenneth DENG, Hanzeng LIANG, Guozhao	Energy Exchanges and the Energy Effici- ency of Household Ponds in the Dike-Pond System of the Zhujiang Delta, China	323

彙 報 (昭和61年1月～
昭和61年3月)

人事異動

- (教育職) (昇任)
 1月16日 第一研究部助教授 須藤 健一
 (第四研究部助手)
 (停年退職)
 3月31日 第四研究部教授 加藤 九祚
 (任期満了)
 3月31日 筑波大学・第一研究部併任教授
 宮田 登

シンポジウム

◎「現代日本文化における伝統と変容」シン
 ポジウム 都市のフォークロア
 日時 昭和61年1月22日(水)一24日(金)
 場所 国立民族学博物館
 概要 本館では「現代日本文化における伝統
 と変容」をテーマに特別研究を行って
 きたが、今年度(第4回)のシンポジ
 ウムにおいては、『都市のフォークロ
 ア』と題して、「都市習俗の変わるも
 の(=変容)と変わらざるもの(=伝
 統)とのダイナミックス」を追究する。
 このテーマのねらいは、近代日本(16
 世紀後半より以降)を視野のうちおさ
 めながら、現代日本(つまり20世紀)
 における都市の生活文化の変化を正面
 にすえて、さまざまな角度から検討を
 くわえてみようとするところにある。

シンポジウム委員会

- 井上 忠司 甲南大学教授・国立民族学
 (委員長) 博物館第一研究部(客員教
 官)
 端 信行 国立民族学博物館第三研究
 部助教授
 小山 修三 国立民族学博物館第四研究
 部助教授
 中牧 弘允 国立民族学博物館第一研究
 部助教授
 水口 修 国立民族学博物館管理部庶
 務課共同利用係長
 名輪 智子 「伝統と変容」事務局
 報告者
 石森 秀三 国立民族学博物館
 井上 章一 京都大学
 井上 忠司 甲南大学(民博客員教官)

- 梅棹 忠夫 国立民族学博物館
 小川 了 国立民族学博物館
 杉田 繁治 国立民族学博物館
 園田 英弘 国立民族学博物館
 園田 稔 国学院大学
 大丸 弘 国立民族学博物館
 高田 公理 愛知学泉大学
 谷 直樹 大阪市立大学
 中牧 弘允 国立民族学博物館
 波平恵美子 九州芸術工科大学
 鳴海 邦碩 大阪大学
 正田 正博 ㈱シー・ディー・アイ
 芳井 敬郎 花園大学

討論参加者

- 氏家 幹人 内閣文庫
 大塚 和夫 国立民族学博物館
 栗田 靖之 国立民族学博物館
 小山 修三 国立民族学博物館
 祖父江孝男 放送大学
 竹村 卓二 国立民族学博物館
 端 信行 国立民族学博物館
 松山 利夫 国立民族学博物館
 森田 恒之 国立民族学博物館
 米山 俊直 京都大学

日 程

1月22日(水)

- 10:30 (司会 竹村 卓二)
 あいさつにかえて 梅棹 忠夫
 問題提起:都市のフォークロア
 井上 忠司

I 都市生活のリズム

〈人生の節目〉(司会 端 信行)

- 13:15 伝統的子供文化の再生:誕生日
 小川 了
 都市生活における危機と「厄年」
 の習俗 波平恵美子
 〈都市の歳時記〉(司会 大塚 和夫)

- 15:30 演出された季節感一夏の女
 井上 章一
 生活のなかの宗教 中牧 弘允

1月23日(木)

〈祭りイベント〉(司会 松山利夫)

- 10:00 祭の変容構造一祇園祭鯉山を例と
 して 杉田 繁治
 祭とマチ文化 園田 稔

II 都市生活のドラマ

- 〈「まち」の社交〉(司会 祖父江孝男)
 13:15 “着る・飾る”をめぐる20才の虚像
 大丸 弘
 社交の場としての銭湯・風呂屋
 谷 直樹
 〈盛り場文化〉(司会 小山 修三)
 15:30 都市の盛り場―浅草から渋谷まで
 高田 公理
 17:30 ターミナル文化はあるか
 園田 英弘

2月24日(金)

III 都市生活のデザイン

- 〈余暇のデザイン〉(司会 森田恒之)
 10:00 「休みの日」のデザイン
 芳井 敬郎
 12:00 ホテルの文化史 疋田 正博
 〈暮らしのデザイン〉
 (司会 栗田靖之)
 13:15 都市と独り者 石森 秀三
 除去・分離装置系としての都市
 鳴海 邦碩
 15:30 総括討論 井上 忠司

◎日本民族文化の源流の比較研究シンポジウムⅦ

『狩りと漁撈』

日時 昭和61年2月5日(水)～2月8日(土)

場所 国立民族学博物館

摘要 この特別研究は、日本民族文化の形成・発展の道筋を考える上で提起される様々の問題を、周辺民族との比較を通じて、遠心的・求心的に研究しようとする10年計画のプロジェクトである。

本年度は、狩りと漁撈をテーマとして、民族学のみならず、動物生態学、先史学、自然人類学、栄養学、歴史学、民俗学といった多彩な分野における研究者の参加を得て、自然・文化の両面からの相互討論をもくろんだ。

シンポジウム実行委員会

- 小山 修三 国立民族学博物館第四研究
 (委員長) 部助教授
 秋道 智彌 国立民族学博物館第二研究
 部助手
 佐々木史郎 国立民族学博物館第一研究

部助手

- 松山 利夫 国立民族学博物館第一研究
 部助教授
 水口 修 国立民族学博物館管理部共
 同利用係長
 由井紀久子 『源流』事務局

参加者

報告者

- 秋道 智彌 国立民族学博物館
 東 滋 京都大学霊長類研究所
 石川純一郎 常葉学園短期大学
 大林 太良 東京大学教養学部
 小池 裕子 埼玉大学教養学部
 河内まき子 東京大学理学部
 五島 淑子 山口大学教育学部
 小山 修三 国立民族学博物館
 佐々木史郎 国立民族学博物館
 田中 淡 京都大学人文科学研究所
 千葉 徳爾 明治大学文学部

討論者

- 赤澤 威 東京大学総合研究資料館
 石川 榮吉 東京都立大学人文学部
 梅棹 忠夫 国立民族学博物館
 C. M. Aikens オレゴン大学
 大森司紀之 北海道大学歯学部
 大塚柳太郎 東京大学医学部
 川那部浩哉 京都大学理学部
 小林 達雄 国学院大学文学部
 佐々木高明 国立民族学博物館
 佐原 真 奈良国立文化財研究所
 周 達生 国立民族学博物館
 宋 文薫 筑波大学歴史人類学系
 福井 勝義 国立民族学博物館
 福田 栄治 京都府立総合資料館
 松山 利夫 国立民族学博物館

日程

2月5日(水)

- 13:30 (座長 佐々木高明)
 館長挨拶 梅棹 忠夫
 問題提起 小山 修三
 15:15 (座長 福井 勝義)
 資源一1
 陸上狩猟獣の資源量
 東 滋

2月6日(木)

- 10:00 (座長 赤澤 威)
資源-2
水産資源の伝統的管理と保護—
狩猟との関連で— 秋道 智彌
- 12:30 (座長 佐々木高明)
中国
古代中国の狩猟について 田中 淡
- 14:15 (座長 大林 太良)
北アジア
北海道、サハリン、アムール川
下流域における毛皮及び皮革利
用について 佐々木史郎
- 16:00 (座長 小山 修三)
討論 I

2月7日(金)

- 10:00 (座長 佐々木高明)
先史
日本列島における先史時代の狩
猟活動—特にパレオバイオマス
分析と捕獲率について— 小池 裕子
- 12:30 (座長 小山 修三)
歴史
中世・近世における狩座と狩猟
信仰 石川純一郎
- 14:15 (座長 秋道 智彌)
形質
身長の地域差は何を意味するか
河内まき子
- 16:00 (座長 松山 利夫)
栄養
食糧と栄養—肉食と魚食をめぐ
って— 五島 淑子

2月8日(土)

- 10:00 (座長 福井 勝義)
文化-1
日本の狩猟者とその行動—とく
に農耕とのかかわりについて— 千葉 徳爾
- 12:30 (座長 佐々木高明)
文化-2
日本の狩猟・漁撈の系統—信仰
・儀礼などから見た— 大林 太良

14:15 (座長 小山 修三)
討論 II

◎「近代世界における日本文明」
—経済機構の比較文明学—

日時 昭和61年3月17日(月)—24日(月)

場所 国立民族学博物館, 東洋紡績総合研究
所求是荘

摘要 谷口国際シンポジウム文明学部門は,
「近代世界における日本文明」という
大きなテーマのもとで, 文明学という
新しい研究領域の開拓に着手してきた。
今回のテーマは, 「経済機構の比較文
明学」とする。今日, 日本の経済(活
動)は世界の注目を集めるところであ
るが, それがどのような歴史過程によ
って形成されたのかを, 世界の諸文明
の経済機構と比較することによって明
らかにすることが, 今回のテーマの目
的である。

組織委員会

- 梅棹 忠夫 国立民族学博物館長
(委員長)
- 竹村 卓二 国立民族学博物館第一研究
部長
- 佐々木高明 国立民族学博物館第二研究
部長
- 伊藤 幹治 国立民族学博物館第三研究
部長
- 加藤 九祚 国立民族学博物館第四研究
部長
- 杉本 尚次 国立民族学博物館第五研究
部長
- 秦 明夫 国立民族学博物館管理部長

専門委員

- ハルミ・ベフ スタンフォード大学教授
ヨーゼフ・クライナー
ボン大学日本文化研究所長

実行委員会

- 端 信行 国立民族学博物館第三研究
(委員長) 部助教授
- 須藤 健一 国立民族学博物館第一研究
部助教授
- 松山 利夫 国立民族学博物館第一研究
部助教授
- 栗田 靖之 国立民族学博物館第二研究
部助教授

石森 秀三 国立民族学博物館第四研究部助教授
 永ノ尾信悟 国立民族学博物館第二研究部助手
 磯村 紘 国立民族学博物館庶務課長
 湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務理事
 宇治日出二郎 財団法人千里文化財団事業部長

参加者

ハルミ・ベフ スタンフォード大学
 ロドニー・クラーク テクニカル・チェンジ・センター
 ジャーニ・フォデラ ミラノ大学
 マーク・フリュイン カリフォルニア州立大学
 ヨーゼフ・クライナー ボン大学日本文化研究所
 トーマス・リフソン ハーバード大学
 呉 鍾錫 釜山大学校商科大学
 石森 秀三 国立民族学博物館
 梅棹 忠夫 国立民族学博物館
 作道洋太郎 大阪大学
 重松 伸司 名古屋大学
 鈴木 智夫 岐阜薬科大学
 端 信行 国立民族学博物館

日程

3月17日(月) (千里新阪急ホテル)
 17:00 受付
 3月18日(火) (国立民族学博物館)
 10:00 開会式 自己紹介(司会 端 信行)
 10:30 基調講演 梅棹 忠夫(代理説明)
 セッション1・2 (座長 ハルミ・ベフ)
 13:00 ジャーニ・フォデラ 「Economic Institutions and Social Characteristics Favouring Economic Growth and Development—A comparative approach」
 14:00 討論
 15:15 作道洋太郎 「現代日本経済の原像を求めて—豪商と財閥の文明史」
 16:15 討論
 3月19日(水) (国立民族学博物館)

セッション3 (座長 石森 秀三)
 10:00 ロドニー・クラーク 「Business Information and Business Values —A Comparative View」
 11:00 討論
 セッション4 (座長 重松 伸司)
 13:00 マーク・フリュイン 「The Modern Corporation and the Enterprise System in Japan」
 14:00 討論
 セッション5 (座長 鈴木 智夫)
 15:15 トーマス・リフソン 「Economic Institutional Forms: Made in Japan」
 16:15 討論
 3月20日(木) (国立民族学博物館)
 セッション6 (座長 ジャーニ・フォデラ)
 10:00 端 信行 「経済機構と社会機構」
 11:00 討論
 セッション7 (座長 作道洋太郎)
 13:00 呉 鍾錫 「韓国経済の文化的展望」
 14:00 討論
 3月22日(土) (求是荘)
 セッション8・9
 (座長 ヨーゼフ・クライナー)
 13:00 鈴木 智夫 「近代中国における企業経営—無錫財閥『榮家企業』の研究」
 14:00 討論
 15:15 重松 伸司 「東南アジアにおける印僑の活動とその特質」
 16:15 討論
 3月23日(日) (求是荘)
 セッション10 (座長 ハルミ・ベフ)
 10:00 石森 秀三 「物見遊山の比較文明学」
 11:00 討論
 総括討論 (座長 端 信行)
 13:30 総括討論
 15:15 総括討論
 16:30 ワークショップ
 17:00 閉会式
 3月24日(月) ホテルレークビワ
 10:00 解散

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
江口 一久	助教授(第三研究部)	61. 1. 13	61. 3. 13	カメルーン, フランス
石毛 直道	助教授(第四研究部)	61. 1. 20	61. 2. 12	インドネシア
藤井 知昭	教授(第二研究部)	61. 1. 21	61. 2. 4	フランス, ハンガリー, インド
須藤 健一	助教授(第一研究部)	61. 1. 26	61. 2. 20	ミクロネシア連邦, ベラウ共和国, アメリカ合衆国
梅棹 忠夫	館長	61. 2. 15	61. 3. 1	中国
大森 康宏	助教授(第三研究部)	61. 3. 8	61. 3. 30	アメリカ合衆国, フランス, イタリア

来館者抄

1月21日	Hans URSING (スウェーデン, President and Chief Executive Officer, Employment Security Council) Bengt-Arne VEDIN (スウェーデン, Research Programme Director, Business & Social Research Institute) Barbro URSING (スウェーデン, Director, Wholesale Swedish Apparel Chain) 中国, 雲南民族学院及び雲南省民族研究所一行 黄 惠 焜(雲南省民族学院副院長, 中国民族学会副会長) 王 叔 武(雲南省民族研究所長, 国家民族事務委員会委員) 王 敬 驩(雲南省民族研究所副所長) 劉 剛(雲南省民族研究所助教) 山本英治(東京女子大学教授)	2月15日	中国現代国際関係研究所代表团 吴 学 文(現代国際関係研究所顧問) 刘 穎(現代国際関係研究所研究員) 錢 建 南(現代国際関係研究所研究員) 甘 愛 蘭(現代国際関係研究所研究員)
1月30日	Roger Essex Burchall PEREN (ニュージーランド大使館特命全権大使) 金原 勲(世界子供美術博物館副館長補佐)	2月20日	中山 賀博(青山学院大学国際政治経済学部国際政治学科教授) Antoine D'IORIO (カナダ, Rector, University of Ottawa)
2月1日	天城 勲(放送教育センター所長) Abdurrahman WAHID 夫妻(インドネシア, ウラマー協議会議長団メンバー) 中村 光男(千葉大学文学部教授)	2月27日	塚越つた子(東京大学社会科学研究所助手) 国安 寛(秋田県立博物館副館長)
2月7日	權 宗 複(韓国, 韓国文教部社会職業教育局長) 姜 寅 秀(韓国, 韓国文教部国	3月3日	Patricia BOVEY (カナダ, グレーターヴィクトリア美術館長)
		3月4日	キスターノフ(ソビエト社会主義共和国連邦, 在日大阪総領事館副領事)
		3月6日	A. V. シューストフ(ソビエト社会主義共和国連邦, 在日札幌総領事館副領事)
		3月6日	Francisco SERRANO-DIAZ (メキシコ, Adviser to the General Director, National Institute of Fine Arts)
		3月10日	Garth R. BOOMER (オーストラリア, Chairman, Commonwealth Schools Commission)
		3月11日	西ドイツ, カールスルーエ市視察団代表 Dr. HECK (カールスルーエ市文化事業局長) Matthias LAUK (ホログラフィ・

- 映像ニューメディア・ミュージアム館長)
 Mrs. GIELOW (カールスルーエ市評議会委員)
 Mrs. RINGELMANN (カールスルーエ市評議会委員)
 Mr. KESSEL (カールスルーエ市評議会委員)
 Dr. VOGEL (カールスルーエ市評議会委員)
 Mr. GRIMM (カールスルーエ市評議会委員)
 Mr. FUNK (カールスルーエ大学経済計画学教授)
 Mr. DEUSSEN (カールスルーエ大学学長)
 Mr. REICHERT (新コミュニケーション・メディア・センター所長)
 Dr. KNORR (バーデン・ビュルテンベルグ州科学芸術省次官)
 Peter ZEC (ホログラフィ・映像ニューメディア・ミュージアム学芸員)
- 3月13日 王 福 祥 (中国, 北京外国語学院長)
- 3月15日 杉山ひとみ (町田市立博物館主事)
- 3月17日 佐藤 岱生 (通産省工業技術院地質調査所地質情報解析室主任研究官)
- 3月18日 呉 紫 彦 (中国, 広州大学長, 広州市人民政府副秘書長)
 黄 仁 章 (中国, 広州中在外国機構服務站站長)
- 3月20日 アルベルト・ロソヤ (メキシコ, メキシコ外務省局長)
 ミケル・アンフェル・フェルナンデス (メキシコ, 国立人類学・歴史学研究所)
 フェン・ヤデウン (メキシコ, 国立人類学・歴史学研究所)
 セルヒオ・モンテロウ (メキシコ, 国立人類学・歴史学研究所)
- セルヒオ・ゴンサレス・ガルベス 大使夫妻 (在京メキシコ大使館)
 ハイメル・ヌアラルト (在京メキシコ大使館文化参事官)
- 3月22日 Aldina NUTT (リヒテンシュタイン王国, リヒテンシュタイン王国儀典長)
- 3月25日 何 耀 華 (中国, 雲南大学教授)
 李 紹 明 (中国, 西南民族学研究会学理事長)
 高 立 士 (中国, 雲南省民族研究所弁公室主任)
 中国文化部訪日代表团
 張 敏 鰲 (文化部総合研究処処長)
 呉 熙 華 (アジア処副処長)
 馬 秀 芳 (交際処副処長)
 劉 世 昌 (対外宣伝処二等書記官)
 石 永 菁 (アジア処通訳)
 柴 桂 銘 (中国, 新疆ウイグル自治区文化副庁長)
 韓 翔 (中国, 新疆ウイグル自治区文化庁文物処副処長助理研究員)
 王 経 奎 (中国, 新疆ウイグル自治区文化庁)
 沙 比 提 (中国, 新疆ウイグル自治区博物館長)
- 3月29日 Ricardo M. LANTICAN (フィリピン, Director of Research University of the Philippines at Los Baños Colloge, Laguna)
 Thelmas S. PALIS (フィリピン, Office of the Director of Research University of the Philippines at Los Baños Colloge, Laguna),
 Flordeliza S. MELENDEZ (フィリピン, Chief International Science Relations Division Special Projects Service)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえで、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。英文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 *Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.*
In Eric H. Lenneberg (ed.), *New Directions in the Study of Language*,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 *Social Structure in Southeast Asia.* Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 *The Rites of Passage.* M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 11卷1号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

竹 村 卓 二

〔編 集 委 員〕

永ノ尾 信 悟

大 塚 和 夫

君 島 久 子

ケネス・ラドル

崎 山 理

周 達 生

杉 村 棟

須 藤 健 一

垂 水 稔

中 山 和 芳

八 杉 佳 穂

和 田 正 平

昭和61年8月25日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 11卷1号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.11 no.1
1986

- | | |
|--|--|
| ISHIGE, Naomichi | <i>Gyoshō</i> in Northeast Asia: A Study of Fermented Aquatic Products |
| ITOH, Mikiharu | Acceptance of Christianity (Catholicism) in a Northeastern Japanese Rural Community |
| SUGITA, Shigeharu | An Introductory Perspective on "Computer Ethnology" |
| KURIMOTO, Eisei | The Rain and Disputes: A Case Study of the Nilotic Pari |
| YASUGI, Yoshiho | The Analysis of the Mayan Glyphs: Part 1, Naranjo |
| SUGIMOTO, Hisatsugu | An Ethnological and Geographical Study of European Open-Air Museums |
| RUDDLE, Kenneth
DENG, Hanzeng
LIANG, Guozhao | Energy Exchanges and the Energy Efficiency of Household Ponds in the Dike-Pond System of the Zhujiang Delta, China |



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X